



ソフトバンクグループ株式会社

2027 年 3 月期 第 1 四半期 決算説明会

2026 年 8 月 6 日

免責事項

本資料は、ソフトバンクグループ株式会社（以下「SBG」）及びその子会社（以下 SBG と併せて「当社」）並びに関連会社（以下当社と併せて「当社グループ」）に関する関連情報を提供するものであり、すべての法域において、いかなる証券の購入又は応募の申込みを含む、いかなる投資勧誘を構成又は形成するものではありません。証券の募集、購入の申し出の勧誘、又は証券の売出しは、1933 年証券法（その改正を含む。以下、「証券法」という。）の登録要件に従って行われます。本資料に含まれる情報は、証券法ルール 135 に従って記載されるものです。

本資料には、当社グループの推定、予測、目標及び計画を含む当社グループの将来の事業、将来のポジション及び業績に関する記述など当社グループの将来の見通しに関する記述、見解又は意見が含まれています。将来の見通しに関する記述には、特段の限定を付すことなく、「目標とする」、「計画する」、「確信する」、「希望する」、「継続する」、「期待する」、「目的とする」、「意図する」、「だろう」、「かもしれない」、「であるべきである」、「したであろう」、「できた」、「予想する」、「推定する」、「企図する」若しくは類似する内容の用語若しくは言い回し又はその否定形などが含まれています。本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、当社グループが本資料の日付現在において入手可能な情報を踏まえた、当社グループの現在の前提及び見解に基づくものです。これら将来の見通しに関する記述は、当社グループのメンバー又はその経営陣による将来の業績を保証するものではなく、当社グループのビジネスモデルの成功、当社グループの資金調達力及びその資金調達条件の影響、SBG の重要な経営陣に関するリスク、当社グループの投資活動に関する又はこれに影響を与えるリスク、SB ファンド（下記で別途定義）並びにその投資、投資家及び投資先に関するリスク、ソフトバンク株式会社及びその事業の成功に関するリスク、Arm 及びその事業の成功に関するリスク、法令・規制・制度などに関するリスク、知的財産権に関するリスク、並びに訴訟を含むこれらに限られない既知及び未知のリスク、不確実性その他要因を含み、これらの要因により、実際の当社グループの実績、業績、成果又は財務状態は、将来の見通しに関する記述において明示又は黙示されている将来の実績、業績、成果又は財務状態と著しく異なる可能性があります。当社グループの実績、業績、成果又は財務状態に影響を与える可能性のあるこれら及びその他の要因については、SBG のホームページの「事業等のリスク」

https://group.softbank/ir/investors/management_policy/risk_factor）をご参照下さい。当社グループ及びその経営陣は、これら将来の見通しに関する記述に明示されている予想が正しいものであることを保証するものではなく、実績、業績、成果又は財務状態は、予想と著しく異なる可能性があります。本資料を閲覧する者は、将来の見通しに関する記述に過度に依拠してはなりません。当社は、本資料に記載される将来の見通しに関する記述その他当社が行う将来の見通しに関する記述を更新する義務を負いません。過去の業績は、将来の実績を示すものではなく、本資料に記載される当社グループの実績は、当社グループの将来の実績の予測若しくは予想の指標となるものではなく、又はこれを推定するものでもありません。

本資料に記載されている当社グループ以外の企業（SB ファンドの投資先を含みますが、これに限られません。）に関わる情報は、公開情報等から引用したものであり、当社は、情報の正確性又は完全性について保証するものではありません。

商標について

本資料に記載されている企業、製品及びサービスの名称は、各企業の商標又は登録商標です。

重要なお知らせ—SBG の普通株式の取引、スポンサーなし ADR（米国預託証券）に関する免責事項

SBG の普通株式の売買を希望する場合には、当該普通株式が上場され、主に取引が行われている東京証券取引所において売買を行うことを推奨します。SBG の開示は、スポンサーなし ADR（以下「ADR」）の取引の促進を意図するものではなく、ADR の取引判断を行う際にこれに依拠すべきではありません。SBG は、SBG の普通株式に関するスポンサーなし ADR プログラムの設定又はそれに基づき発行される ADR の発行若しくは取引について、過去及び現在において、参加、支援、推奨その他同意を行ったことはありません。SBG は、ADR 保有者、銀行又は預託機関に対して、(i)SBG が 1934 年米国証券取引所法（以下「証券取引所法」）で定めるところの報告義務を負うこと、又は、(ii)SBG のホームページに、SBG が証券取引所法ルール 12g3-2(b)に従って証券取引所法に基づく SBG の普通株式の登録の免除を維持するために必要な全ての情報が継続的に掲載されることを表明するものではなく、また、当該者又は機関は、そのように信じてはなりません。適用ある法が許容する最大限の範囲において、SBG 及び当社グループは、SBG の普通株式を表象するスポンサーなし ADR に関連して、ADR 保有者、銀行、預託機関その他企業又は個人に対するいかなる義務又は責任を否認します。

上記の免責事項は、ソフトバンク株式会社や LINE ヤフー株式会社などの、スポンサーなし ADR プログラムの対象であるか又は将来対象となる可能性のある当社グループの証券に同様に適用されます。

本資料に記載されるファンド情報に関するお知らせ

本資料は、情報提供を目的として提供されるものであり、法律上、税務上、投資上、会計上その他の助言又は SB Global Advisers Limited（以下「SBGA」）、SB Investment Advisers (UK) Limited（以下「SBIA」）及びそれらの関係会社を含む SBG の子会社（以

下併せて「SB ファンド運用会社」）により運用されるいずれかのファンド（文脈に応じて、パラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ピークル又はオルタナティブ投資ピークルと併せて「SB ファンド」）のリミテッド・パートナーシップ持分又は同等の有限責任持分の販売の申込み又は申込みの勧誘を行うものではなく、また、いかなる方法でもそのように依拠してはなりません。疑義を避けるために付言すると、SB ファンドは、他のファンド同様、SBIA とその関係会社によって運用されている SoftBank Vision Fund L.P.（文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ピークル又はオルタナティブ投資ピークルと併せて以下「ビジョン・ファンド 1」）、SBGA とその関係会社によって運用されている SoftBank Vision Fund II-2 L.P.（文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ピークル又はオルタナティブ投資ピークルと併せて以下「ビジョン・ファンド 2」）及び SBGA とその関係会社によって運用されている SBLA Latin America Fund LLC（文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ピークル又はオルタナティブ投資ピークルと併せて以下「ラテンアメリカ・ファンド」）を含みます。

SB ファンド（ビジョン・ファンド 1 及びビジョン・ファンド 2 並びにラテンアメリカ・ファンドを含む）、SB ファンド運用会社、SB ファンド運用会社により運用される後続又は将来のファンド、SBG 又はそれぞれの関係会社のいずれも、本資料に記載されている情報の正確性又は完全性について、明示又は黙示であるにもかかわらずこれを表明又は保証するものではなく、また、本資料に記載されているパフォーマンスに関する情報は SB ファンドその他本資料に言及される企業の過去若しくは将来のパフォーマンス又は SB ファンド運用会社により運用される後続ファンド、将来組成されるファンドの将来のパフォーマンスについての確約又は表明として依拠してはなりません。

SB ファンドその他本資料に言及される企業のパフォーマンスに関する情報は、背景説明のみを目的として記載されるものであり、関連する SB ファンド、本資料に言及されるその他のファンド又は SB ファンド運用会社により将来運用されるファンドの将来のパフォーマンスを示すものとして考慮されるべきではありません。SB ファンドの特定の投資対象に関する情報への言及は、それに含まれる範囲において、関連する SB ファンド運用会社の投資プロセス及び運用方針を説明することのみを目的として述べられたものであり、特定の投資対象又は証券の推奨として解釈してはなりません。SB ファンドのパフォーマンスは各個別の投資においてそれぞれ異なる可能性があり、個別に言及した取引のパフォーマンスは、必ずしも全ての適用される従前の投資のパフォーマンスを示唆するものではありません。本資料において記載及び説明される特定の投資は、関連する SB ファンド運用会社が行う全ての投資を示すものではなく、本資料において記載及び検討される投資が利益を生んだ又は将来利益を生むと仮定すべきではありません。

本資料に記載される SB ファンドのパフォーマンスは、ポートフォリオ投資の未実現の評価額に基づくものです。未実現の投資評価額は、関連する SB ファンド運用会社がそれぞれ特定の投資に関する状況に基づき合理的とみなす前提及び要因（例えば、評価日現在における類似の会社の平均株価収益率その他勘案事項等を含みます。）に基づくものです。しかしながら、未実現の投資評価額が本資料に記載されている金額又は本資料に記載されているリターンを算定するために用いられる金額で実現されるという保証はありません。また、かかる実現に関連する取引費用が未知であるため、当該取引費用は、かかる算定に含まれません。未実現額の見積りは、常に変化する多くの不確定要素の影響を受けます。関連する SB ファンドの未実現の投資に対する実際の実現リターンは、いくつか要因がある中で特に、将来の運用実績、処分時の資産価格及び市況、関連する取引費用並びに売却の時期及び方法によって決まるものであり、これらの要因は全て、関連する SB ファンド運用会社の評価の根拠となった前提及び状況と異なる可能性があります。

過去のパフォーマンスは、必ずしも将来の実績を示すものではありません。SB ファンド又は SB ファンド運用会社により運用される将来のファンドのパフォーマンスは、本資料に示されるパフォーマンス情報よりも大幅に低くなる可能性があります。各 SB ファンド又は関連する SB ファンド運用会社により運用されるいずれか将来のファンドが、本資料に示される実績と同等の実績を達成するという保証はありません。

本資料に記載される第三者のロゴ及びベンダー情報は、説明目的のためにのみ提供されるものです。かかるロゴの記載は、かかる企業又は事業との提携又はその承認を示唆するものではありません。SB ファンド運用会社、SB ファンドのポートフォリオ会社、SB ファンド運用会社により運用される将来のファンドの将来のポートフォリオ会社、又は SBG が、本資料に記載されるロゴを有する企業又は事業のいずれかと今後業務を行うという保証はありません。

SBGA 及び SBIA は、ビジョン・ファンド 1、ビジョン・ファンド 2 及びラテンアメリカファンドの運用に関して、相互に SBG からそれぞれ別個独立した業務プロセスを採っています。SBGA 又は SBIA によって運用される SB ファンドは、それぞれ SBGA 単独又は SBIA 単独で運用されています。

[登壇者]

取締役 専務執行役員 CFO 兼 CISO	後藤 芳光 （以下、後藤）
常務執行役員 CAO 兼 CSusO	君和田 和子
SB Investment Advisers & SB Global Advisers Executive Managing Partner	マーク・アグニー （以下、マーク）
Arm Executive Vice President & Chief Financial Officer	ジェイソン・チャイルド （以下、ジェイソン）

登壇

司会： それでは後藤より、ソフトバンクグループ株式会社（以下「SBG」）の連結決算概要および事業概要につきまして、ご説明申し上げます。

後藤： 最初に、先日発生した熊本の地震で亡くなられた方々に、心よりお悔やみを申し上げます。また、被災された皆さま、そして避難所や慣れない土地で不安な毎日を過ごされている皆さまがたくさんいらっしゃると思います。心からお見舞いを申し上げたいと思います。

われわれもグループを挙げて、こうした災害に対してできる限りのサポートをしてまいりたいと思っています。SBG、そして通信会社のソフトバンク株式会社（以下「SBKK」）、また九州を地盤としている福岡ソフトバンクホークスで、義援金への取り組みや寄付の呼びかけなどを行っています。

これからも苦しい生活が長く続くと思いますので、われわれも九州全体をサポートできるように体制を整えたいと思っています。

6月末、NAVは過去最高を更新

(兆円)

過去最高

72.3

(25年度Q4末比 +32兆円)



3

第1四半期の決算発表です。3月末から6月末に向けて、市場はダイナミックに動きました。SBGは投資会社ですので、われわれが持つ資産価値は市場からの評価の影響を受けます。

結果的に、われわれの投資資産の時価評価額から純有利子負債を引いた Net Asset Value（以下「NAV」）は、6月末時点で72.3兆円となり、過去最高を大幅に更新しました。私たちの企業価値を評価する上ではこのNAVが一番重要です。

NAVは足元で調整

(兆円)

72.3

58.3



4

足元では少し調整が入っているので、8月5日の時価で資産を再評価すると、概算で58.3兆円ぐらいです。72.3兆円から大きく減ったのも事実ですが、過去のトレンドから見れば、58.3兆円でも相当な数字です。これをさらに、われわれの歴史と合わせて見てみたいと思います。



この表がわれわれの成長の記録ですし、成長力を今後どれだけさらに伸ばしていけるか、われわれはチャレンジしていくことになります。決算発表で毎回申し上げているとおり、良いときも悪いときも、株価の短期的な変動に一喜一憂はまったくしていません。

中長期に、どんな基盤になり得るか、どう成長していくかが何よりも重要なテーマだと考えています。



われわれの投資戦略は、まさにわれわれの事業戦略そのものです。ASI 時代のプラットフォームとして、今何をすべきかを逆算しながら考える。なぜわれわれが AI インフラにこれほど一生懸命取り組むのか。AI インフラに取り組まないと、AI モデルの進化のスピードが鈍ってしまうからです。

もちろん、われわれの投資先である OpenAI もそうですが、多くの AI モデルの進化のスピードをより高めていくためには、AI インフラの整備が必要です。AI インフラの整備を進めることで、Arm の成長もさらに加速することになります。Arm はご存じのとおり、設計分野において圧倒的なシェアを持っているわけです。

したがって、AI が進化し、より多くのチップが使われていく中で、Arm の基本的な事業モデルはさらに大きくなっていく。それだけではありません。先般、Arm は自らチップそのものを事業として手掛けることも発表しました。Arm が作る非常に能力の高いチップは、多くの AI インフラや AI モデルに使われていくことになります。

そして、われわれ自身がライフスタイルカンパニーであるということは、従前から何十年も申し上げてきています。フィジカル AI は、われわれが世界中の人々のライフスタイルやワークスタイルを大きく変えていくために、今一番強い関心を持って取り組みを始めている領域です。この分野はまだ始まったばかりですから、黒字化している会社もなければ、勝ち組が決まっているわけでもない。それだけに、大変面白い分野でもあります。

この四つの分野に取り組むのは、それぞれが非常に密接に関連しているからです。この3カ月で、それぞれどのような進化、変化があったかを説明させていただきます。



ASI の No.1 プラットフォーマーへ、ということで、われわれも孫（孫 正義 代表取締役 会長兼社長執行役員）も頑張ってまいります。

2026年度Q1決算ハイライト



1 投資利益 **1.86兆円** 純利益 **3,473億円**
(前年同期比+1.37兆円) (前年同期比▲745億円)

2 NAV **72.3兆円** 過去最高 (26年6月末現在)

3 OpenAIに **\$20B**追加出資 (26年4月、7月)

4 仏**5GW**AIデータセンター構築を発表 (26年6月)

純利益:親会社の所有者に帰属する純利益

8

第1四半期決算のハイライトです。投資利益は1.8兆円と、前年同期比で約1.4兆円のプラスです。また、純利益も約3,500億円としっかりと確保しています。

二つ目は、NAVが72.3兆円と、これまでの数字を大きく超えて、過去最高となりました。三つ目は、OpenAIへの投資です。予定どおり、4月と7月で合計200億米ドルの追加出資を実施しました。10月にあと100億米ドルを出資することはすでにコミット済みです。

四つ目は、フランスにおける5GW規模のAIデータセンター構築を発表したことです。この3カ月の成果として大きなニュースだったのではないかと考えています。

連結業績

SoftBank
Group

投資利益が前年同期比で大幅増

(億円)

	2025年度 Q1	2026年度 Q1	増減額
売上高	18,203	20,196	+1,993
投資損益	4,869	18,594	+13,724
税引前利益	6,899	5,892	-1,008
純利益	4,218	3,473	-745

純利益：親会社の所有者に帰属する純利益
連結業績の構成上、各料と内訳が一致しない場合がある。

10

連結業績を少しブレイクダウンしてみます。それぞれの項目の数字について、特徴的なのはやはり投資利益です。前年同期比で大幅に増加し、約1兆8,600億円となりました。純利益は約3,500億円です。

こうした数字について、過去からの推移を説明しますが、ここに表れてこないのがNAVです。われわれの企業価値にはむしろ、NAVが何よりも重要だということも重ねて申し上げておきます。

投資損益および純利益

SoftBank Group

IntelおよびByteDanceの公正価値増加が投資利益を押し上げ



純利益：親会社の所有者に帰属する純利益

11

四半期別の投資損益と純利益の推移です。この第1四半期の投資利益である約1兆8,600億円の大きな要因は、実はIntelです。米国における半導体事業はわれわれとしても注目すべきテーマだということで、昨年、投資しました。その結果、この3カ月で非常に大きな伸びを示しています。

それから、ソフトバンク・ビジョン・ファンド（以下「SVF」）の投資先であるByteDanceの公正価値増加も、投資利益を押し上げた大きな要因の一つと言えます。

重要指標

SoftBank Group

NAVは大幅増加。手元流動性は減少も LTVは極めて安全な水準で推移

	2026年3月末		2026年6月末
NAV	40.1 兆円	➡	72.3 兆円
LTV (純負債／保有株式価値)	17.0%	➡	13.0%
手元流動性	3.5 兆円	➡	2.3 兆円

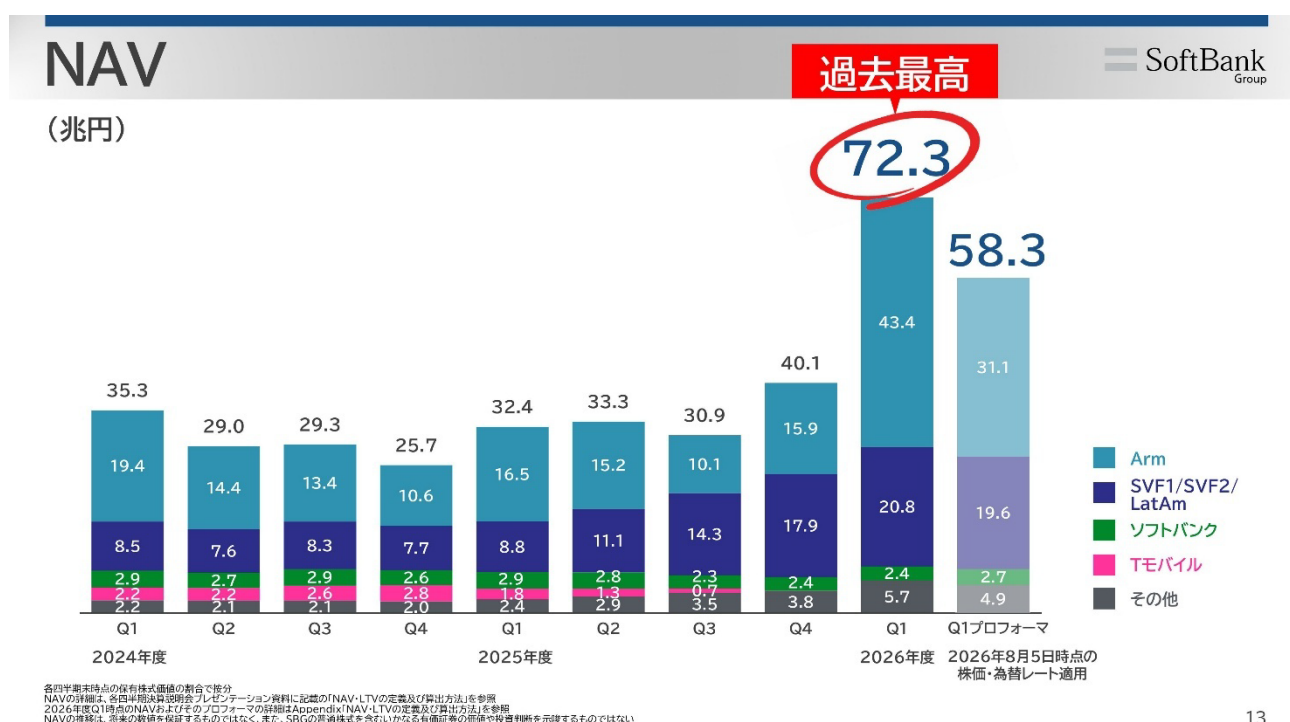
NAVおよびLTVの詳細はAppendix「NAV・LTVの定義及び算出方法(2026年3月末時点)」[NAV・LTVの定義及び算出方法(2026年6月末時点)]を参照
手元流動性：現金及び現金同等物＋流動資産に含まれる短期投資＋債券投資＋借入枠の未使用金額、SBG単体手元流動性には含まれる債券投資の一部を主な担保とした、SB Northstarによるプライムブローレレッジローン残高(2026年3月末：8,019億円、6月末：6,849億円)を各時点で控除

12

重要指標として財務的にこれまでお見せしてきているのが、この三つのテーマです。一つ目のNAVは繰り返しになりますが、今年6月末は72.3兆円、3カ月前の40.1兆円に比べて約32兆円の増加となりました。

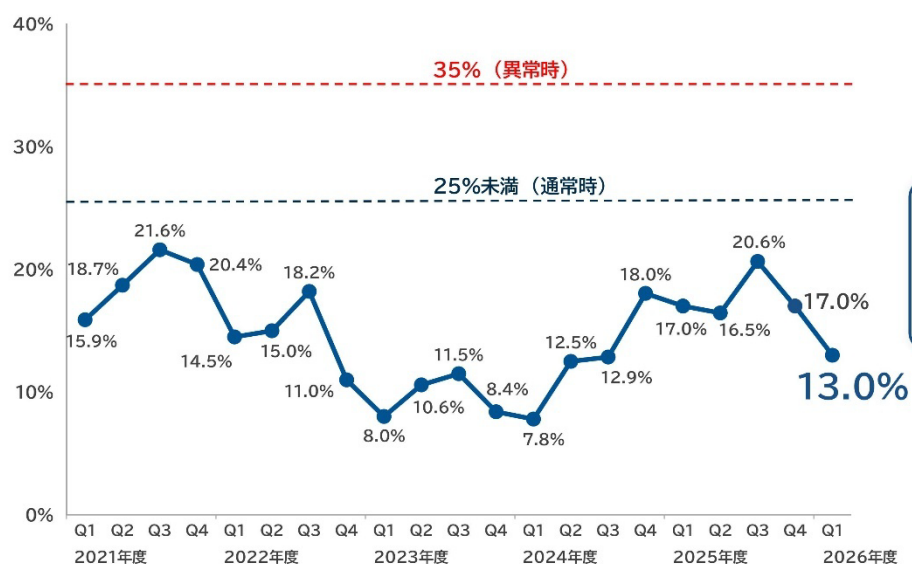
そして、安全性の指標としてのLoan to Value（以下「LTV」）です。時価評価したわれわれの資産に対して、どれだけ借入れをしているかという数字ですが、6月末で13%ということで、大変安全な数字です。安全すぎる、もう少し投資しなければいけないのではないかというぐらい、改善が進んでいるということになります。

そして、手元流動性は3.5兆円から2.3兆円へ若干減少していますが、これは負債の返済対応や、投資に対応したものです。重要な財務ポリシーは十分に満たしています。後ほどご説明したいと思います。



まず、NAVの四半期別の推移ですが、過去最高の72.3兆円です。

アセットバック・ファイナンス除く

極めて安全な
水準で推移

各四半期末時点
LTVの算出方法は各四半期決算説明会プレゼンテーション資料に記載の「NAV・LTVの定義及び算出方法」を参照

14

LTV も、通常時 25%未満という数字をわれわれの財務ポリシーとして、皆さまに認識していただいています。25%そのものが十分安全な数字ですが、過去の変遷を見ていただくと、それよりもさらに安全なレベルを維持しているということです。

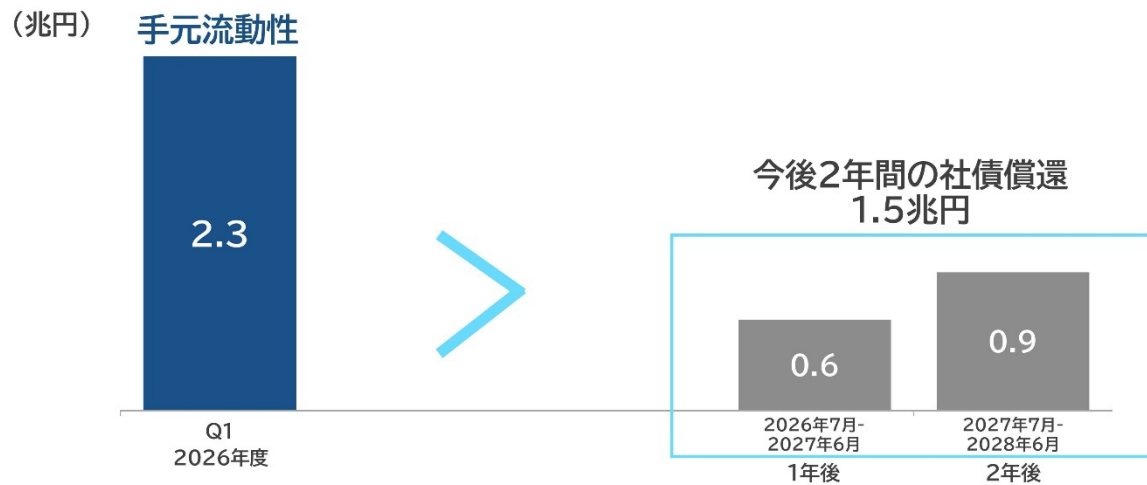
投資会社の中で、われわれのように自己勘定での投資額が大きいのは、世界的にも非常にまれです。ですから、投資会社としての安全性を皆さまにしっかり見ていただくには、やはりこういう数字は非常に重要だと思います。

また、なぜ 25%という数字をわざわざ申し上げているかというと、何か目安がないと、いったいどのくらい安全なのか分からないからです。もちろん金融に携わっている方々は LTV のレベル感をよくご承知だと思いますが、25%未満で運営していれば、マーケットが少々荒れても、また大きく荒れても、まったく安全なレベルなのです。企業のゴーイングコンサーンにいささかも影響を与えないように運営していくための指標ということです。

手元流動性

SoftBank Group

2年分の社債償還額を超える手元流動性を維持



手元流動性: 現金及び現金同等物 + 流動資産に含まれる短期投資 + 債券投資 + 借入枠の未使用金額。2026年6月末時点の借入枠の未使用金額は4,895億円、SBG単体手元流動性に含まれる債券投資の一部を主な担保とした、SB Northstarによるプライムブローカレッジローン残高6,849億円を控除

15

手元流動性です。われわれが財務ポリシーの中で重要視しているのは、今後2年間の社債償還資金を十分カバーできる手元流動性を維持するということです。今後2年間の社債償還は約1.5兆円ですので、まったく問題のない、余裕のあるレベルと言えると思います。

売上高

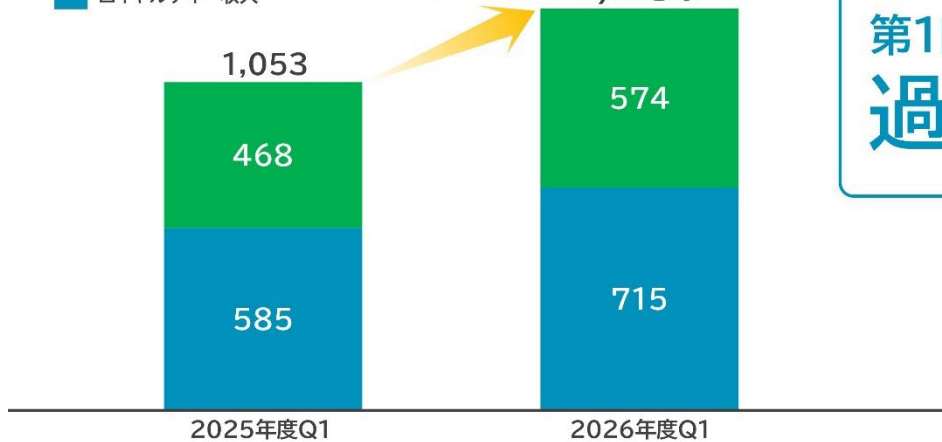
arm

(\$ M)

■ ライセンスおよびその他の収入
■ ロイヤルティー収入

22%増 1,289

第1四半期として
過去最高

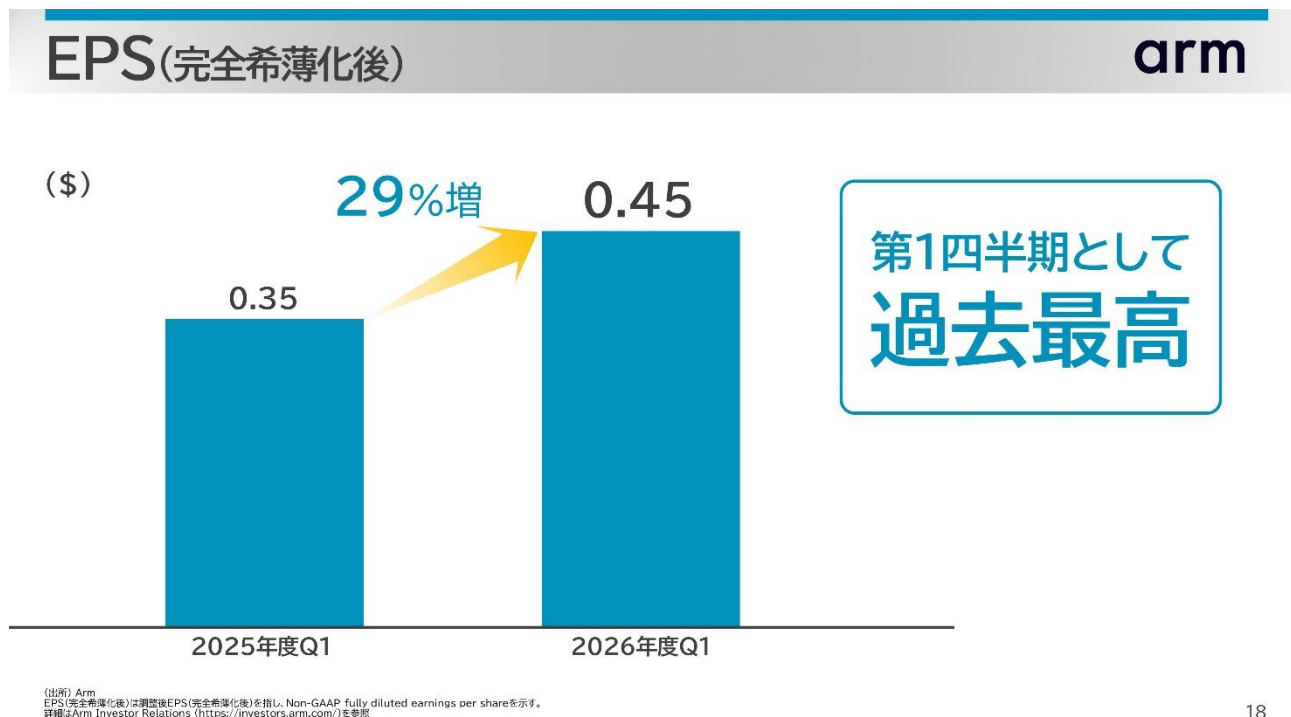


(出所) Arm
米国会計基準。ライセンスおよびその他の収入: ロイヤルティー収入以外の収入。詳細はArm Investor Relations (<https://investors.arm.com/>)を参照

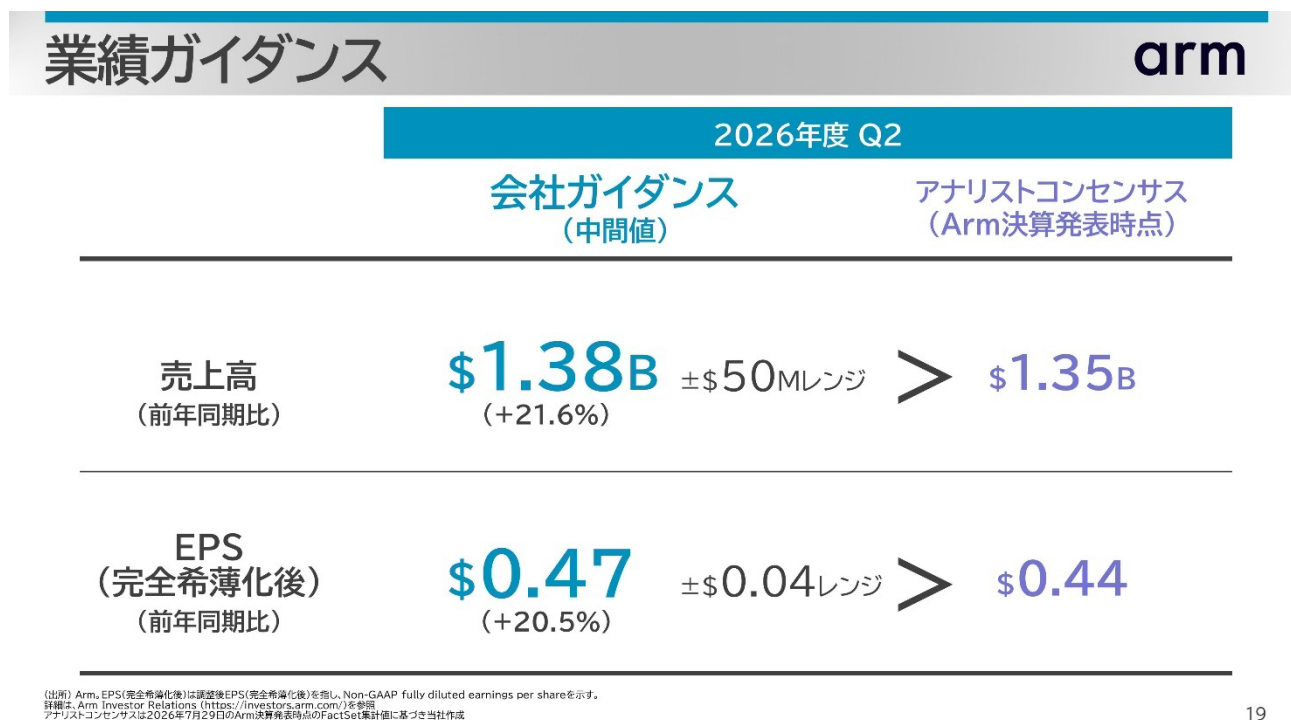
17

グループ会社の状況です。まず最重要子会社の1社であるArmについてです。

売上高は、第1四半期として過去最高の約13億米ドルの実績を出し、前年同期比22%増ということで、大変素晴らしい数字ではないかと思います。



完全希薄化後のEPSも、第1四半期で過去最高となりました。前年同期比29%増ですから、非常に満足のいく数字だと考えています。



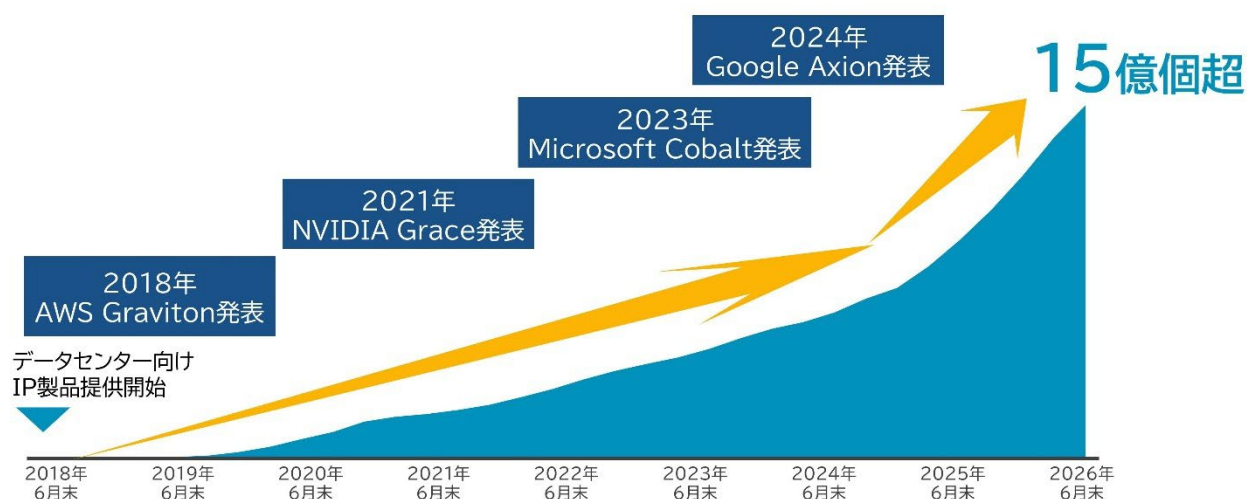
Arm は業績ガイダンスを発表しています。第 2 四半期の売上高のガイダンスは若干の幅を持っていますが、中間値は 13.8 億米ドルです。EPS のガイダンスは 0.47 米ドルで、いずれも Arm の決算発表時点でのアナリストコンセンサスを上回っています。投資家の皆さまにとっても、納得のいく数字ではないかと考えています。

データセンター向け Arm ベース CPU のコア

arm

IPビジネス

データセンター向け Arm ベース CPU のコア (累計出荷数)



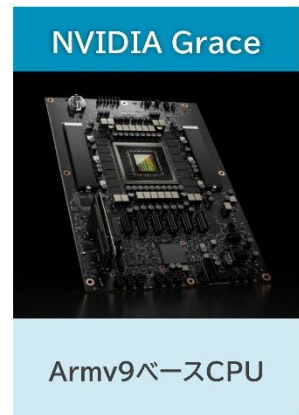
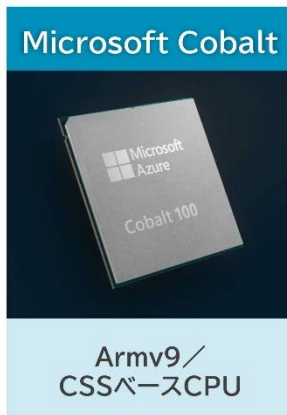
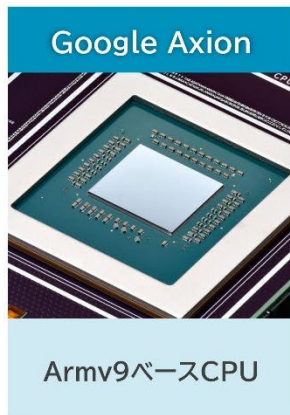
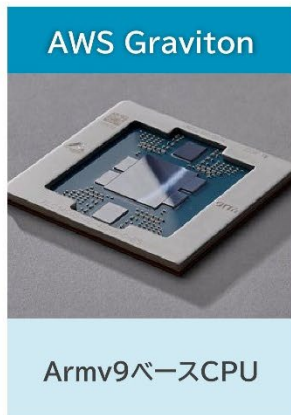
(出所) Arm, Arm Neoverseコアの累計出荷実績。出荷実績は、出荷の発生から1四半期遅れてライセンスから報告を受けるため、2026年4月から6月までの出荷数は見積もリベース

20

Arm を巡る環境です。データセンター向けの Arm ベース CPU のコアがどのくらい出荷されているかですが、多くのハイパースケーラーが Arm の CPU を使っていることで、2019 年から出荷が一気に成長してきています。AWS の Graviton、NVIDIA の Grace、Microsoft の Cobalt、また Google の Axion などです。この 1 年間は、特に伸びが加速しています。これは Arm の今後の事業モデルに非常にポジティブに作用すると推測しています。

テクノロジー企業による採用拡大が成長を牽引 **arm** IPビジネス

主要ハイパースケーラーCPUチップの約50%はArmベース



(出所) Arm
主要ハイパースケーラーCPUチップの約50%はArmベース:2025年にハイパースケーラー向けに出荷されたチップのうち約50%はArmベースの技術を使用

21

Arm のテクノロジーは、テック企業の中で次々と採用が拡大しており、特に Arm の IP をベースにした CPU の採用拡大が成長をけん引しています。主要ハイパースケーラー向け CPU チップのおよそ 50%が Arm ベースと見ています。

こちらに並ぶ AWS Graviton、Google Axion、Microsoft Cobalt、NVIDIA Grace などが、Arm ベースのチップの知名度をさらに高めているということになるかと思います。

Arm AGI CPU **arm** チップビジネス

世界最高効率のエージェントCPU



1GWのDC容量当たり
**最大\$10Bの
CAPEX削減効果**
(x86比)

(出所) Arm

22

Arm AGI CPU です。前回の決算発表でも説明しましたが、Arm は創業以来取り組んできた半導体設計図の提供に加え、Arm AGI CPU を自ら開発・販売することを発表しました。

大変大きな事業モデルの拡大になります。この CPU は世界最高効率のエージェント CPU で、x86 と比べ、1GW のデータセンター容量当たりの CAPEX、設備投資額の削減効果が最大 100 億米ドルに上るといことです。

AI エージェントの普及によって、データセンター向け CPU の市場規模は、今後さらに大きく拡大していくと予想されています。私どもや Arm 自身も含め、この Arm AGI CPU には当初の見込みよりもさらに強い需要が見られる現状ではないかということで、将来に向けて大変ポジティブな状況だと思っています。

新たに2社がローンチパートナーに

arm
チップビジネス

The graphic features a central white box with a blue border. At the top of this box is a blue banner with the text "Arm AGI CPU ローンチパートナー". Below the banner, logos are arranged in rows. The first row has two red pill-shaped labels with the word "新規" (New) above the logos for "ORACLE" and "verda". The second row contains logos for "OpenAI", "SAP", "POSITRON", and "f5". The third row contains logos for "cerebras", "rebellions_", "SK telecom", and "CLOUDFLARE". To the right of the central box, there is a separate white box with a blue border containing a blue pill-shaped label with the word "共同開発" (Joint Development) above the "Meta" logo.

(出所) Arm

23

Arm AGI CPU のローンチパートナーには、新たに Oracle と Verda の 2 社が加わりました。これも素晴らしいことだと思っています。

Windows PCにおけるArm IPの採用が拡大



- ☑ ArmベースGrace CPUとNVIDIA Blackwell GPUを統合したPC向けチップ
- ☑ 20コアのArmベースGrace CPUを搭載
- ☑ 動画編集、ゲーミング、AI開発など幅広い高性能PC用途に対応

(出所) 2026年5月31日付NVIDIAプレスリリース「NVIDIA and Microsoft Reinvent Windows PCs for the Age of Personal AI」

24

エージェント AI の流れは、クラウドだけでなく PC 市場でのシェア拡大にもつながってきています。皆さまの手元にあるさまざまなデバイスでも起こりつつあるわけです。

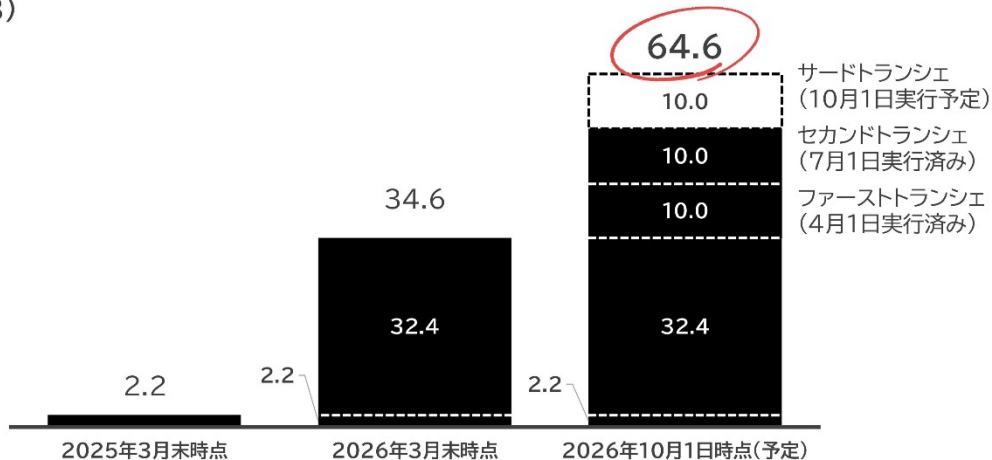
NVIDIA は今回、エージェント機能を持つ PC 向けのチップを発表しましたが、こちらにも Arm ベースの CPU が搭載されています。

OpenAIへの累計投資額

OpenAI

今年度\$20Bの追加出資実行済み。残り\$10Bの追加出資後、
累計投資額\$64.6B、持分は約13%に

(\$ B)



間接出資分を含み、売却額をネットして表示

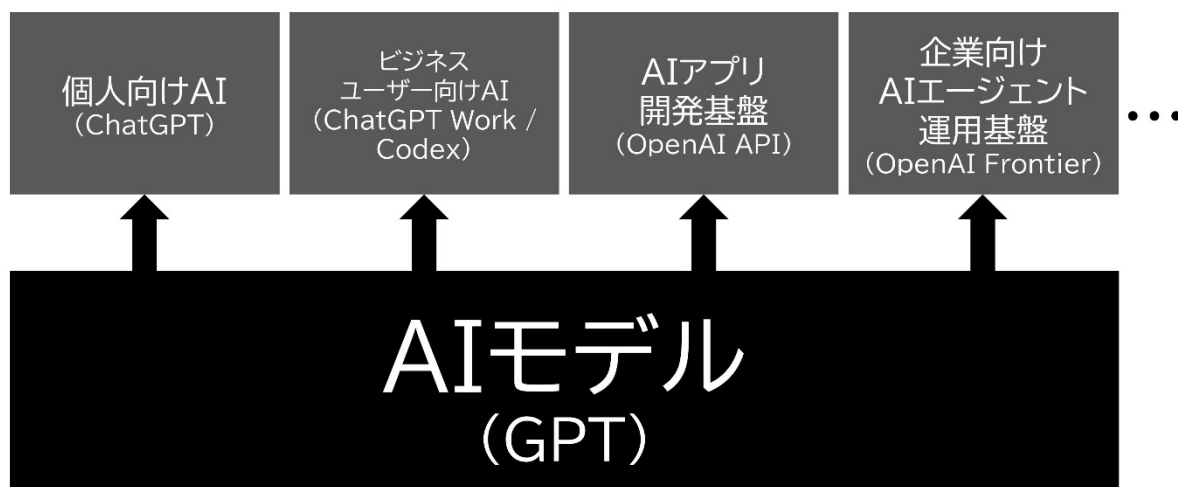
26

次は OpenAI です。

前回の決算発表でも申し上げたとおり、OpenAI への追加出資はコミットメントとして確定しています。今年度行う 300 億米ドルの追加出資のうち、200 億米ドルはすでに実行しました。残りの 100 億米ドルを追加出資すると、累計投資額は 646 億米ドル、持分は約 13%に上ることになります。

AIモデルをベースに多様なプロダクトを展開 OpenAI

AIモデル(GPT)の進化はあらゆるプロダクトの性能を向上



(出所) OpenAI

27

OpenAI は、GPT と呼ばれる AI モデルをベースに、多様なプロダクトを展開しています。個人ユーザー向けには、皆さまもお使いになっていると思いますが ChatGPT。ビジネスユーザー向けには従来から、ソフトウェアエンジニア向けの Codex に取り組み、販売に注力しています。加えて、7 月には ChatGPT Work を新たにリリースしました。AI モデルの進化は、プロダクトの性能をさらに向上させていきます。



(出所) OpenAIブログ

28

2022年にGPT-3.5をChatGPTとしてリリースしてから、GPTはどんどん進化が進み、皆さまの想像を上回る性能へと進化してきているのではないかと思います。

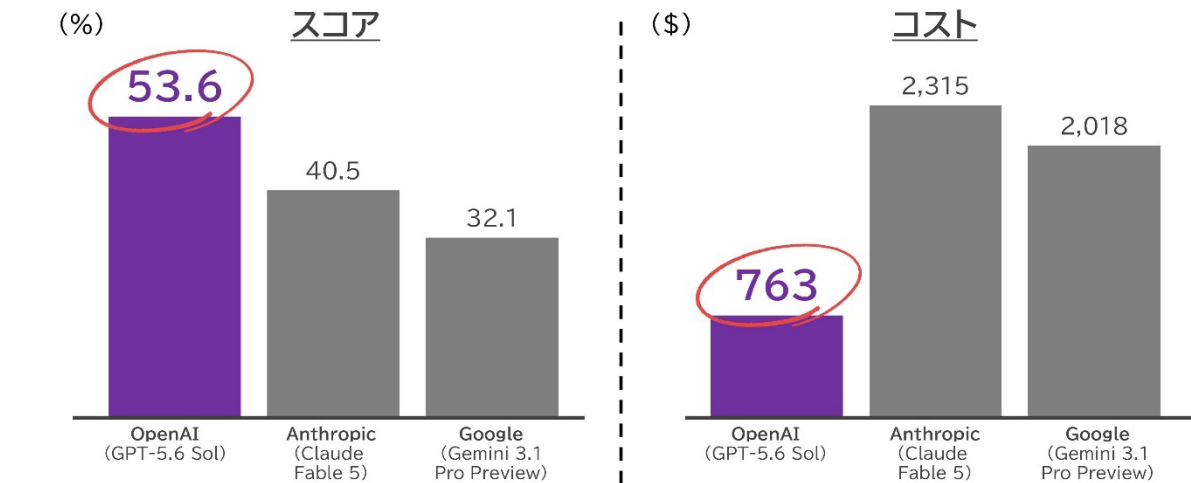
GPT-4では、問題を解くところまで進化しました。これが今からもう3年前です。そしてGPT-5では、初めてエージェントAIが搭載され、いわば「作業するAI」になったのが特徴で、GPT-3.5やGPT-4に比べるとはるかに大きな進化です。

そして、今年7月にリリースされた最新バージョンのGPT-5.6は、エージェント機能を一段と進化させ、「実務を進めるAI」になっています。特徴は、AIが自律的に実務を進めるというところではないかと思います。

GPT-5.6は高い性能・コスト効率を実現

OpenAI

専門業務におけるAI評価試験（UC Berkeley等が開発）



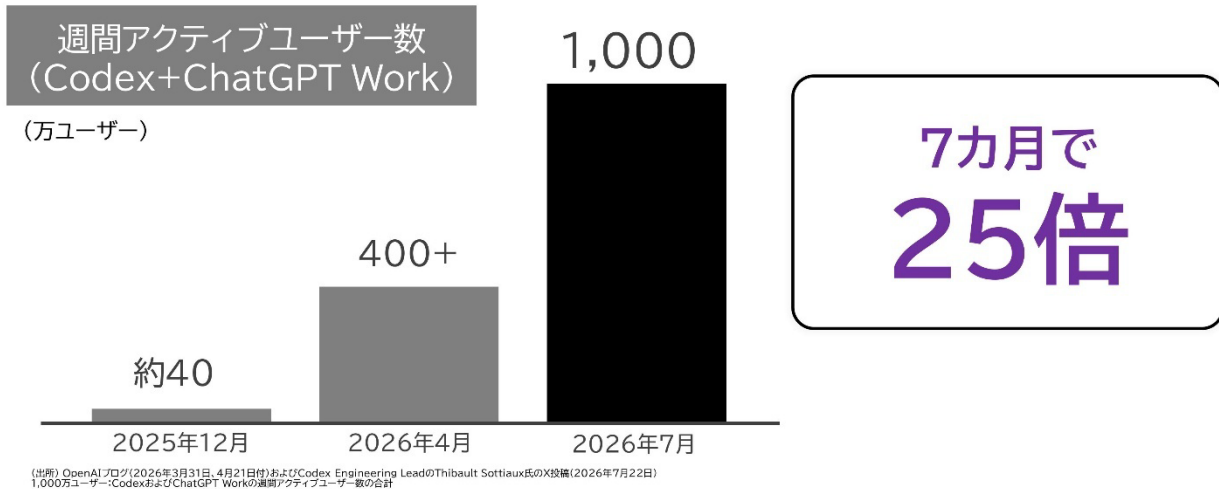
(出所) OpenAIブログ(2026年7月9日付)
専門業務におけるAI評価試験: Agents' Last Exam
スコア: Agents' Last Examにおいて専門業務を担った際の平均スコアを示す。
コスト: 推定APIコスト。API経由でベンチマークを実行した場合の推定コスト。ChatGPT / Claude等のサブスクリプション料金とは異なる。実際の利用料金は、トークン量、推論設定、キャッシュ利用、契約プラン等により変動。
GPT-5.6 SolはGPT-5.6 Solの推論実行レベルXhighを指す。Gemini 3.1 Pro PreviewはGemini 3.1 Pro Previewの推論実行レベルXhighを指す。Claude Fable 5はClaude Fable 5の推論実行レベルAdaptiveを指す。

29

この GPT-5.6 が専門家の間でどのように評価されているかということです。UC Berkeley などが開発した専門業務における AI 評価試験によると、AI の性能を示すスコアは Anthropic や Google と比べて OpenAI が最も高い点数が出た一方で、右側のコストにおいては他の 2 社に比べて大幅に低いと評価されています。

つまり GPT-5.6 は、極めて性能の高いモデルを極めてローコストで提供できるという点で高い評価を得ているということです。

ビジネスユーザー向けAI(ChatGPT Work)に組み込まれ Codexはさらに成長



30

法人向けでは、ソフトウェアエンジニア向け AI エージェントの Codex の利用が急速に伸びています。

2025 年 12 月に約 40 万ユーザーだった Codex と ChatGPT Work の週間アクティブユーザー数は、この 7 月に 1,000 万ユーザーとなりました。7 カ月間で 25 倍です。それだけ大きな成長を遂げているということです。

法人向けのサービスは、他社に比べると少し後発かもしれませんが、OpenAI はリテールユーザー向けサービスで先行し、ブランディングの面でも圧倒的な先行者メリットを獲得しているので、今後の法人向けサービスの拡充やユーザー数の拡大に大いに期待をしていきたいと思っています。

PaaSの本格的な提供を開始 (2026年7月14日)

SoftBank

Patching as a Service(PaaS)の提供により 日本の重要インフラ企業のサイバーセキュリティ対策を支援



詳細は、2026年6月16日付プレスリリース「日本の重要インフラの防衛に向けて、OpenAIの技術を活用したサイバーセキュリティ対策ソリューション「Patching as a Service」を提供開始」および2026年7月14日付ソフトバンク株式会社プレスリリース「OpenAIの技術を活用して脆弱性診断からパッチ適用まで対応する「Patching as a Service」の提供対象を3,000社に拡大し、本格的に提供開始」を参照

31

PaaS とは Patching as a Service のことで、今年 7 月、OpenAI との合併会社である SB OAI Japan が SBKK とともに、高度な AI 技術を活用したサイバーセキュリティソリューションの本格提供を開始しました。

戦略的投資持株会社である SBG としては、投資先が互いに連携しながらそれぞれの価値を高められるように、できることを徹底的に考え、サポートしていきたいと思っています。PaaS の提供開始は、その好事例ではないかと思います。

PaaSを国内3,000社に提供へ

SoftBank

サイバー攻撃からの防御性能の更なる向上へ

PaaS



詳細は、2026年6月16日付プレスリリース「日本の重要インフラの防衛に向けて、OpenAIの技術を活用したサイバーセキュリティ対策ソリューション「Patching as a Service」を提供開始」および2026年7月14日付ソフトバンク株式会社プレスリリース「OpenAIの技術を活用して脆弱性診断からパッチ適用まで対応する「Patching as a Service」の提供対象を3,000社に拡大し、本格的に提供開始」を参照

32

まずシステムの脆弱性診断から入り、不具合を修正するプログラム、いわゆるパッチの適用までを一気通貫で行っていきます。

SBKK のさまざまなリソースを使いながら、まず国内 3,000 社へ提供していきたい。その先にはコード刷新のサービスまで提供していきたいと考えています。

AIデータセンターポートフォリオ

SoftBank Group

3拠点を中心にAIデータセンターの構築を推進



オー＝ド＝フランス地域圏



34

AI インフラ領域について説明します。まず、われわれが中心となって進めていく AI データセンターのポートフォリオです。主に米国と、この四半期に発表したフランスでの展開です。米国では、主にオハイオ州とテキサス州、フランスでは北部のオー＝ド＝フランス地域圏で具体的なプロジェクトに取り組んでいます。



まず、フランスでの 5GW のデータセンター構築発表ですが、6 月の Choose France Summit 2026 で、マクロン大統領の前で発表しました。

5GW規模のAIデータセンターを構築

第1フェーズでは€45Bを投じ2031年までに
フランス北部で3.1GWのAIデータセンターを整備



詳細は2026年5月31日付プレスリリース「ソフトバンクグループ、フランスで5GWのAIデータセンターを構築へ」を参照
データセンター容量3.1GWは総受電容量を指す

36

第1フェーズでは450億ユーロを投じ、フランス北部で2031年までに3.1GWのAIデータセンターを整備する計画です。より具体的には、ダンケルク、ブション、ボスケルといったエリアが最初のサイトになる予定です。

ボスケルAIデータセンター (1GW)

フランス政府によるファストトラック指定

電力確保
(1GW)

送電網への
早期接続

データセンター容量1GWは総受電容量を指す

37

ボスケルのAIデータセンターはフランス政府によるファストトラックに指定されていて、1GWの電力を確保し、フランス国内の送電網への早期接続も約束されています。

例えば、米国や日本でデータセンターのプロジェクトを進める場合、やはりデータセンターは大量の電気を使うので、発電所そのものも建築する必要があるので、設備投資額も2倍かかるわけです。

フランスは世界的に見ても、その辺りに独特の強みがあります。フランスは電気の輸出国です。したがって、政府を挙げて、電力をデータセンターに振り向けることができる。

もちろん、フランス国民の皆さまの電気利用に影響を与えないことが前提ですが、それを上回る分の電力をこちらに振り向けてくれるという意味では、世界的に見ても特徴的で、データセンタープロジェクトを進める上では、非常に進めやすい土壌が整っている地域ではないかと見ています。

AI DC向け機器のサプライチェーン構築

SoftBank Group

ダンケルクに電力モジュールの供給体制を構築し
AIデータセンターの開発を加速

SoftBank Group



Schneider Electric



詳細は2026年5月31日付プレスリリース「ソフトバンクグループ、フランスで5GWのAIデータセンターを構築へ」を参照

38

また、フランスにおいては、サプライチェーン構築にも注力していて、ダンケルクで世界有数の電気機器メーカーである Schneider Electric とともに、AI データセンター向けの取り組みを進めています。具体的には、電力モジュールの供給体制を構築することで、AI データセンター開発をさらに加速できると考えています。



米国オハイオ州 パイク郡 PORTS Technology Campus 10GW規模 大型DCプロジェクト

リース契約締結に向けて協議中

建設着工は2026年中の予定

データセンター10GWは100MWを指す

39

次に米国です。今年3月に発表したオハイオ州の PORTS Technology Campus について、10GW 規模の大型データセンタープロジェクトで、規模が非常に大きいだけに、この計算能力の利用を誰が長期にわたってコミットしてくれるかというリース契約の交渉が、現在、最終局面に向けて進んでいます。建設着工は2026年中を予定しており、現在プロジェクトの予定を組んでいるところです。



米国テキサス州 ミラム郡 AIデータセンター

OpenAIへの提供に向け
第1棟（308MW-IT）建設順調

40

もう一つ、米国で先行して進めているのが、テキサス州ミラム郡の AI データセンターです。こちらはすでに OpenAI と長期のリース契約を結んでおり、第 1 棟の建設が順調に進んでいます。

SB Energyの概要

SB Energy

電力とAIデータセンターを一体開発

設立	2019年
本社	カリフォルニア州
事業概要	電力インフラおよび データセンターの一体開発、 周辺サービスの提供
従業員数	約350名



SB Energy, Co-CEO
リッチ・ホスフェルド

業界経験 **20** 年超



SB Energy, Co-CEO
アビジット・サディ

業界経験 **30** 年超

(出所) SB Energy

41

われわれがデータセンタービジネスを進めていく上で、重要な役割を果たすグループ会社が SB Energy です。2019 年設立で、もともと米国におけるさまざまな電力プロジェクトへの取り組みから、データセンターへと事業領域を拡大してきた会社です。電力とデータセンターを一体開発する能力がこの会社の強みで、経験豊かな経営陣が事業をリードしています。

大規模AIインフラ開発を推進する実行力

SB Energy

累計プロジェクト
資金調達額

約\$19B

建設中および稼働中
発電・蓄電容量

約5GW

(出所) SB Energyウェブサイト、GW:GWacを指す

42

これまで SB Energy は、累計約 190 億米ドルのプロジェクト資金を調達してきました。また、建設中もしくは稼働中の発電・蓄電容量は約 5GW に上ります。米国では相当な規模と存在感のある会社に成長してきています。

SB Energy

S-1登録届出書ドラフトの非公開提出

(2026年5月)

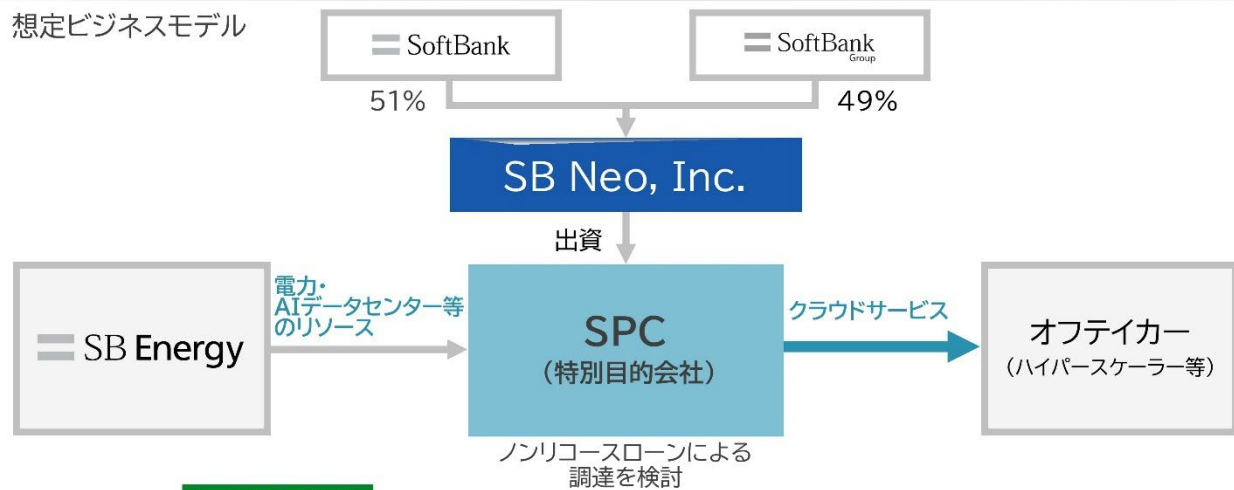
(出所) SB Energy

43

5 月には、S-1 登録届出書ドラフトを非公開で提出しました。今後、市場でもこの会社がさらに大きく成長していくことを、大変楽しみにしています。

米国でネオクラウドサービス提供に向けて始動 SoftBank

想定ビジネスモデル



ネオクラウド事業

AIに必要な計算能力をクラウド経由で提供

現時点での想定であり、今後の検討により変更となる可能性がある

44

ネオクラウドサービスは、先日、SBKK の決算発表でも一部説明があったと思いますが、SBKK と SBG が協力し、米国でのネオクラウドサービス提供に向けて動き出しています。

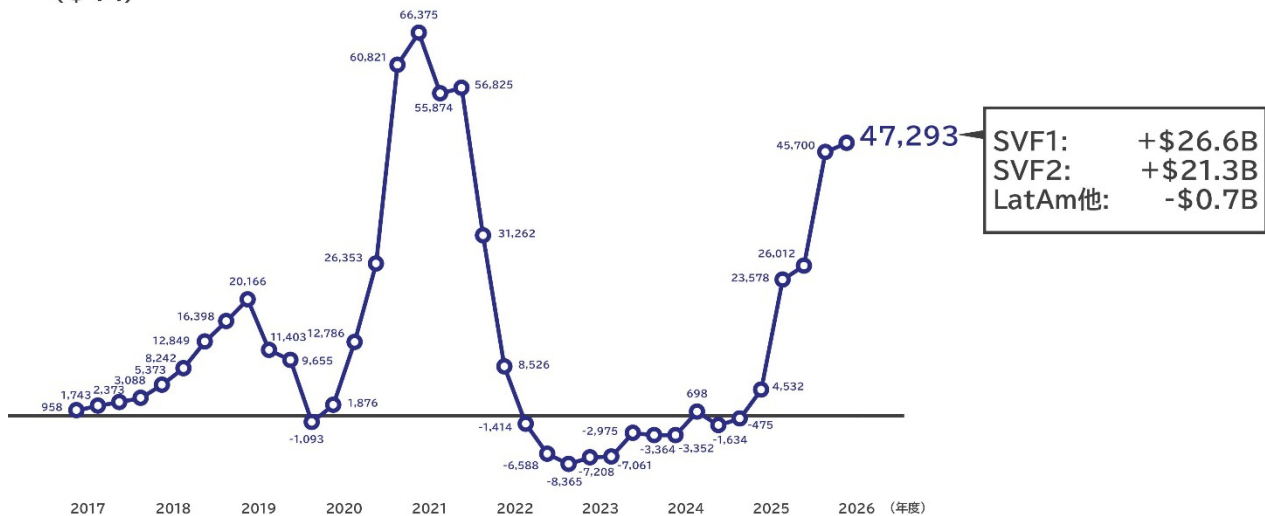
ネオクラウドサービスとは、AI に必要な計算能力をクラウド経由で提供するサービスです。SB Energy が開発する電力や AI データセンターのリソースを活用し、AI に必要な計算能力をクラウドサービスとしてオフテイカーに提供することになるかと思っています。これからの AI 時代に向けて、大変重要なビジネスモデルではないかと考えています。

投資損益 (活動開始来累計)

SVFセグメント

SVF

(\$ M)



投資損益(活動開始来累計):セグメント情報における「SVF事業の投資損益」の2017年度Q1からの累計計上額。デリバティブ関連損益を含む。外部投資家持分および税金等控除前。連結財務諸表の作成における為替換算前

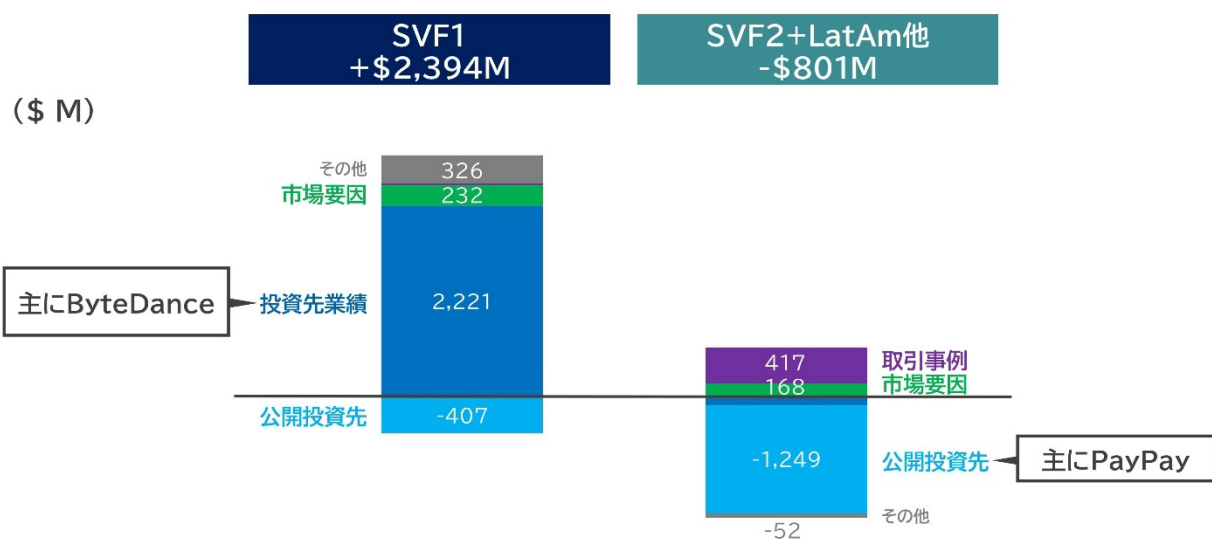
46

それでは SVF について、まず、活動開始来の累計投資損益は順調です。さらに利益を積み上げ、6 月末時点の累計投資損益は約 473 億米ドルの利益となり、3 月末比でも約 16 億米ドルの増加です。

投資損益の内訳 (2026年度Q1)

SVFセグメント

SVF

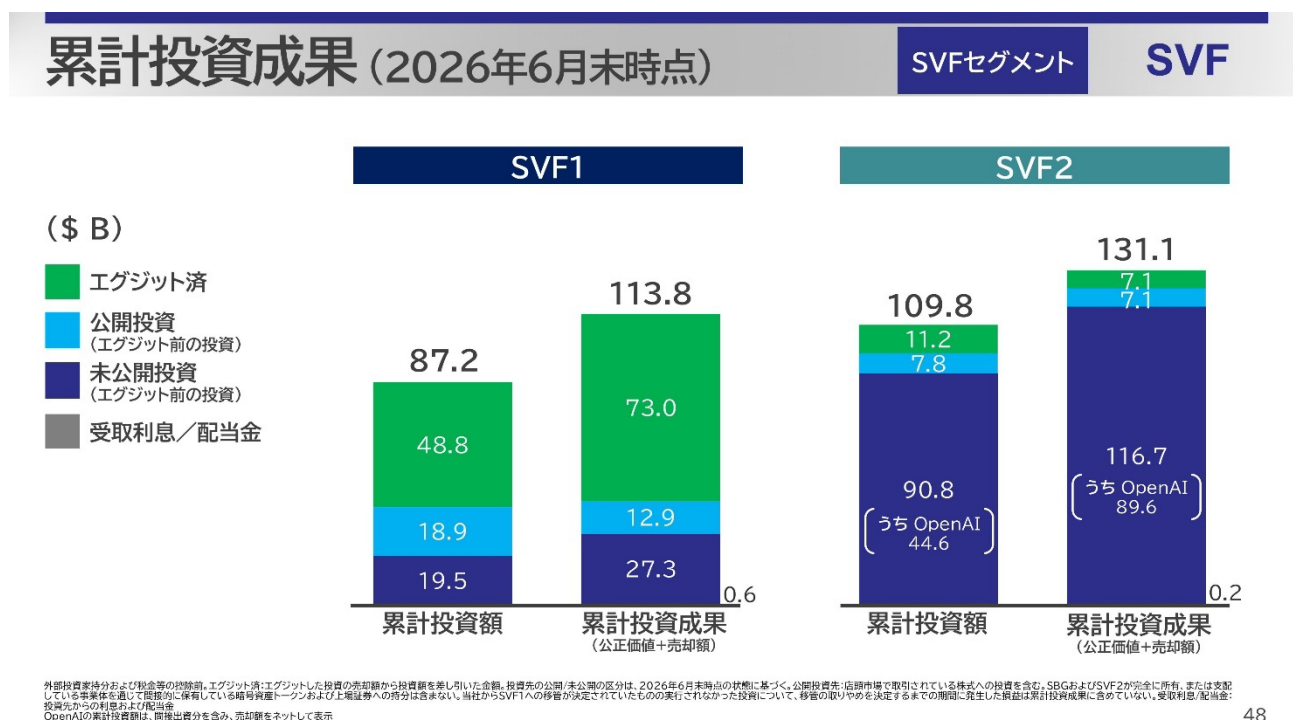


投資損益(2026年度Q1):セグメント情報における「SVF事業の投資損益」の2026年度Q1計上額。デリバティブ関連損益を含む。外部投資家持分および税金等控除前。連結財務諸表の作成における為替換算前
各投資先の2026年度Q1における価値変動の主要因について、SBGAおよび(SBIAが合理的と考え決定した区分に基づき分類)表示。市場要因:類似企業株価比較、資本コストの変動などによる価値変動を含む。その他:エグジットした投資(2026年度Q1にエグジットした投資の売却額から投資額を差し引いた金額)、投資先からの利益および配当金、為替影響などを含む。公開投資先:店頭市場で取引されている投資先を含む。SBGおよびSVF2が完全に所有、または支配している事業体を通じて間接的に保有している暗号資産トークンおよび上場証券への持分は含まない。

47

第1四半期の投資損益の内訳です。左側の SVF1 は、主に ByteDance の公正価値上昇が大きく貢献し、約 24 億米ドルのプラスとなりました。

右側の SVF2 とソフトバンク・ラテンアメリカ・ファンドは若干マイナスになっています。これは春に上場した PayPay の株価が 4～6 月にやや弱含み、そこがマイナスに作用したものです。ただ、PayPay もその後、株価がじりじりと回復してきていますし、将来的には大変楽しみです。



すでにエグジットした投資も含めた累計投資成果です。左側の SVF1 は、累計投資成果が 1,138 億米ドルと、累計投資額 872 億米ドルを大きく上回っています。緑の部分はエグジット済みですから、実際に還元されている金額は 730 億米ドルに上ります。

投資先の公開・未公開を問わず投資回収が着実に進展



投資の売却額(連結キャッシュ・フロー計算書上の「SVFの投資の売却による収入」)。ただし、2025年4月に実施したOpenAIへの追加出資後、外部投資家に対して追加シンジケートされた金額(\$1.0B)を除く

49

投資回収の成果です。前のページの累計投資成果のチャートの緑色の部分です。最近の四半期では毎期、平均して15億米ドル程度の資産を売却し、還元してきています。

過去2年間の主な売却は、無事上場したCoupang、Roivant、Full Truck Alliance、DoorDashなどで、売却を順次進めてきています。

もちろん上場投資先だけではなく、未上場投資先にもさまざまなエグジットの方法があります。上場株を市場で売る方法もあれば、未上場株を相対で取引することもあれば、M&Aで売却することもあります。いろいろなエグジットのスタイルがあり、着実に実施してきています。

今回、SVFから出席しているマークは、これまでも特に投資回収を自身のミッションとして取り組んできています。

株式公開実績と今後のパイプライン

SVF

将来の株式公開に向けた強固なパイプラインを確保

株式公開実績

活動開始来累計

62件

レイトステージ投資先

公正価値合計 **\$133B**
(2026年6月末) (2026年3月末比 +\$15B)

IPOファイリング済

OpenAI
(\$89.6B)

PRISM
(旧名 OYO)

SB Energy

klook

XAG

EiGENCOMM
More than connection

主な投資先

ByteDance

Fanatics

Revolut

QuintoAndar

(出所) SBGAおよびSBIA
株式公開実績(活動開始来累計): IPO件数およびSPACとの合併(De-SPAC)による株式公開件数。株式公開前に投資した投資先および投資後に全部エクジットまたは上場廃止した投資先を含む。WeWorkおよびFull Truck Allianceは、いずれもSVF1およびSVF2からの投資。レイトステージ投資先の公正価値: 2026年6月末時点でレイトステージ投資先は同等のレイトステージ投資先において資金調達を実施した、またはSBGAおよびSBIAの分析に基づいて将来に上場する可能性があると考えられる未公開投資先の公正価値を含む。OpenAIは、過去の資金調達実績と最近の評価額に基づき、レイトステージの投資先として分類。
本スライドに記載の投資は、SVF1、SVF2およびLatAmが実施した投資のうち、シリーズEまたはそれに相当するレイトステージラウンドにおいて資金調達を実施した、または株式公開した投資先を明示するために選択されたものであり、SVF1、SVF2およびLatAmの投資先を網羅するものではない。本スライドに記載の投資への出資は、特定の投資または証券の発行として解釈されるべきではなく、将来行われる投資が、本スライドに記載の投資と同等またはパフォーマンスにおいて同等であると想定されるべきではない。レイトステージ投資先が将来的に上場し株式公開する、あるいはいつでも株式公開が可能であることを保証するものではない。過去の業績が将来も継続することを保証するものではない。
SVF1およびSVF2の投資先一覧は<https://visionfund.com/portfolio/>、LatAmの投資先一覧は<https://www.latinamericafund.com/portfolio/>に掲載。

50

SVF 投資先の株式公開実績と今後のパイプラインです。右側のレイトステージ投資先の公正価値は、今回の OpenAI への追加投資もあり、1,330 億米ドルとなりました。3 月末に比べて 150 億米ドル増加しています。

Prism (旧名OYO)

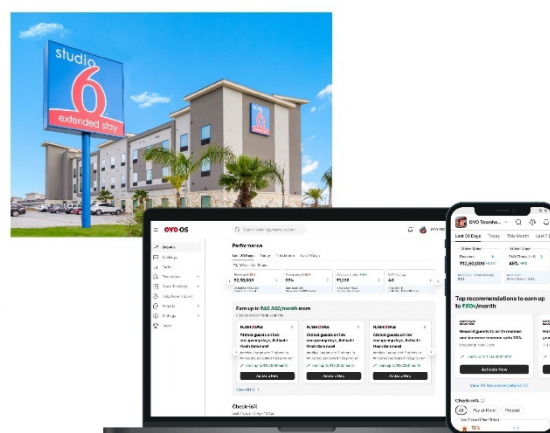
SVF

宿泊プラットフォームをグローバルに展開 宿泊事業者の集客、価格・収益管理、運営を支援

SVF1

PRISM

初回投資時期	2017年度 Q2
掲載施設・物件数	29.4万件 (2025年12月末時点)
売上高	約\$730M (2025年 4-12月)
EBITDA	約\$225M (2025年 4-12月)



(出所) Oravel Stays Limited(Prism)ウェブサイトおよび更新版目録見書(UDRHP)
売上高、EBITDA: 2026年6月末時点の高級レート(1ドル=94.74円ドル比)で換算

51

いくつか上場が近い銘柄を紹介します。まず Prism、旧名 OYO です。皆さまもすでにご存じのとおり、日本でも展開していた OYO というブランドで、世界中に多くのホテルを展開してきました

た。現在は Prism という名称で、IPO ファイリング済みです。以前は自らがホテル事業そのもののオペレーションをやっていましたが、今は世界 35 カ国以上で、宿泊事業者向けにホテルの運営、集客、収益管理を支援するプラットフォームを提供する事業に特化することで、かなり方向性が明確になってきたのではないかと思います。大変、将来有望な会社だと思います。

Klook

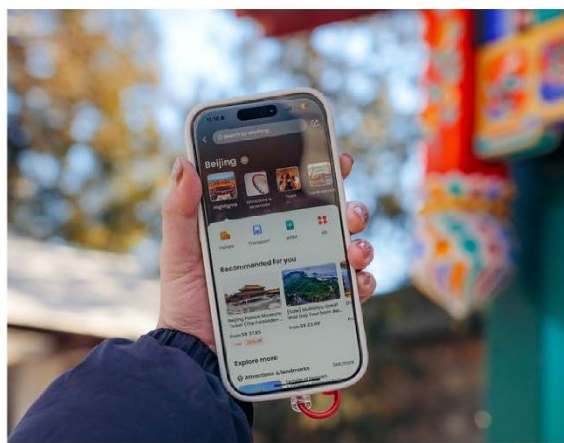
SVF

世界各地の観光ツアー、アクティビティ、交通、宿泊などを
検索・予約できるオンラインプラットフォームを提供

SVF1



初回投資時期	2019年度 Q1
GTV(取扱高)	\$2.3B (2025年 1-9月) (前年同期比 +30.9%)
売上高	\$407M (2025年 1-9月) (前年同期比 +43.5%)

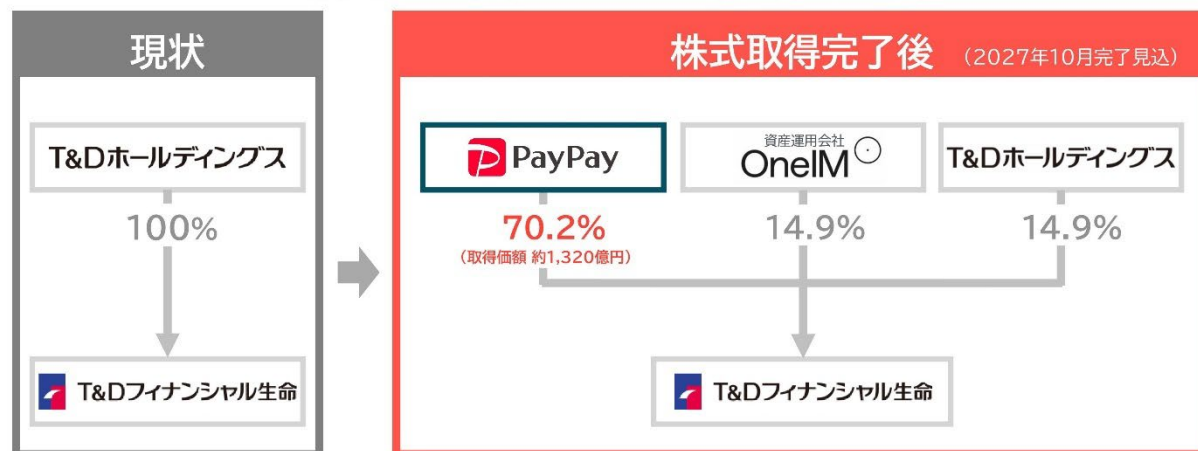


(出所) KlookウェブサイトおよびF-1登録届出書

52

香港に本社を置く Klook は、旅行関連サービスの検索や予約などをオンラインで一括して行えるプラットフォームを提供しています。SVF は 2019 年に初めて投資しました。事業は足元でかなり良い伸びを示しており、今後が期待できる新進気鋭の企業だと考えています。

T&Dフィナンシャル生命の子会社化を発表 包括的な金融サービスの提供を目指す



本株式取得は、関係当局等からの必要な許可等の取得、T&Dフィナンシャル生命におけるIFRS移行計画の実施、並びにその他の本株式取得に係るPayPayおよびT&Dホールディングスの間の株式譲渡契約に定める前提条件の充足を条件として、2027年10月に完了する見込み
取得価額：概算額。取得関連費用約24億円(概算)を含まない

53

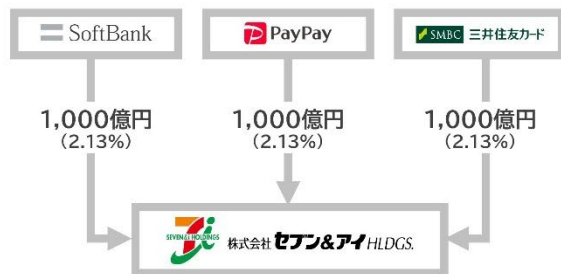
PayPay にも少し動きがありました。6月4日に、T&D フィナンシャル生命の子会社化を発表しました。

生命保険会社をグループ傘下に迎え、PayPay が現在提供しているクレジットカードや決済、銀行・証券サービスに生命保険を加えることで、ユーザーの皆さまのライフステージに応じた包括的な金融サービスを提供できると考えています。長年検討してきたテーマが実現したということです。

セブン&アイHDとの資本・業務提携 (2026年7月31日発表)

各社の強みを結集し、次世代の顧客体験および
次世代生活インフラの共創を目指す

資本提携概要



顧客基盤の統合とデータ活用



2.13%:セブン&アイホールディングスの2026年5月31日時点の発行済株式総数(自己株式を除く)を基準に、第三者割当による自己株式処分、および2026年7月31日付で同社が公表した自己株式の取得を考慮して算出
No.1小売:株式会社セブン-イレブン・ジャパンの店舗数は国内第一位
No.1決済:PayPayの決済回数は国内第一位。(出所)経済産業省「2025年のキャッシュレス決済比率を算出しました」等の公表数値をもとにPayPay算出
詳細は各社のプレスリリースおよびPayPayのFY2026Q1決算説明資料を参照

54

次に、7月末に発表したセブン&アイ・ホールディングスとの資本・業務提携です。SBKKとPayPay、三井住友カードがそれぞれ1,000億円をセブン&アイ・ホールディングスに出資して2.13%ずつを保有します。

特にPayPayにとっては大きな成果につながります。1日に約2,000万人のお客さまが来店されるセブン-イレブンと、1日に約3,000万回の決済が行われるPayPayが組むことで、相互にデータを活用し、次世代の顧客体験と生活インフラをともに作り上げていくことができる。非常に楽しみな業務提携になるのではないかと思います。

セブン-イレブンの店舗数は約2万2,000店、PayPayのユーザー数は約7,500万人です。この業務提携は、将来、お互いに大変大きな価値を生むのではないかと考えています。

フィジカルAIの展開が加速

多くの投資先で社会実装の動きが活発化



56

さて、フィジカル AI の分野です。多くの投資先で社会実装の動きが活発化してきています。現在、グループにはロボ HD 傘下の会社を含め、30 社を超えるフィジカル AI 関連企業があります。

大きく三つぐらいにグルーピングできます。一つはロボティクスです。もちろん将来的にはヒューマノイドまで含めていくことになっていきますが、ロボティクスと、そのための AI 技術の進展の分野が一つです。

もう一つは工場の自動化や産業ロボットの分野。従来からロボットといえばファクトリー・オートメーションの中で使われてきました。そしてもう一つが、モビリティ、オートノマス・ドライビングの分野ということになるかと思います。

それぞれの分野で大きな貢献が期待できる企業が数多くあります。ここに出ているのはほんの一部ですが、今後の成長、発展に大いに期待していただきたいですし、孫も今、この分野に大変注力していて、かなりの時間を割いているのではないかと思います。

右上の赤い囲みは ABB Robotics で、世界 40 カ国で事業を展開しています。買収はすでに発表しており、今年中に買収が完了する予定です。完了すれば、多くの発展途上の起業家たちのアイデアと、ABB が持つ巨大な実績、オペレーション、サービスとの間で多くのシナジーが生まれ、ロボティクスの社会実装が加速するのではないかと期待し、楽しみにしています。

財務方針に変更なし

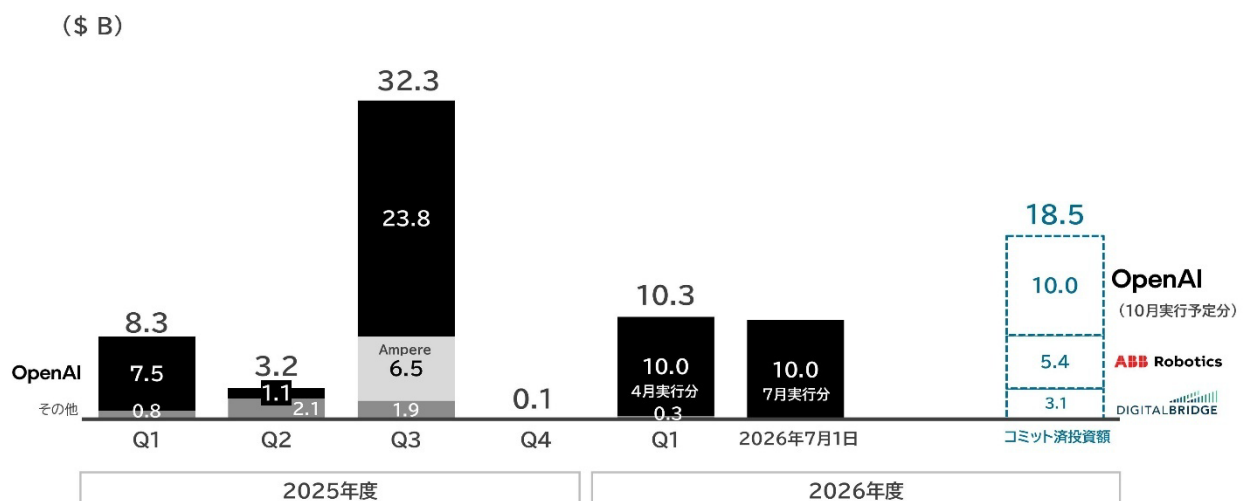
通常時 **LTV25%未満** で運用（異常時でも上限35%）

少なくとも **2年分の社債償還資金** を保持

58

最後になりますが、言い続けているとおり、財務方針にはまったく変更はありません。LTV25%未満という目安を大事に、常に下回る範囲で運営していきたいと思っています。手元流動性は2年分の社債償還資金以上を常に保持することで、安全性を常に確認いただけるようにしていきたいと思っています。

投資額（SBG+SVF）



SBG投資額: SBG、主な100%子会社およびROBOHDからの投資額（グループ内取引および債券投資の投資額を除く）。Ampereについては同社買収のための支出額（Armへの支払額を含む）。その他の子会社化した投資については、連結キャッシュ・フロー計算書上の「子会社の支配権移による収支」、SVF投資額: 連結キャッシュ・フロー計算書上の「SVFの投資の取得による支出」。ただし、OpenAIについては元準備金をネットして表示

59

投資についてまとめると、現時点での 2026 年度の投資額は 2025 年度に比べて少し抑え気味となるのかなと見ています。一番大きいのは OpenAI への投資です。黒い部分は 4 月の 100 億米ドルと 7 月の 100 億米ドルの合計 200 億米ドルで、すでに実行済みです。今後は OpenAI への最後の 100 億米ドルに加え、ABB Robotics の最終払い込みが 54 億米ドル、昨年 12 月に買収を発表した Digital Bridge の支払いが 31 億米ドルです。

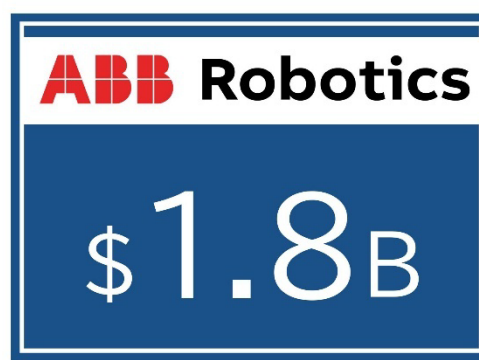
7月以降の主な資金調達

SoftBank Group

OpenAI株式を活用した
ファイナンス契約を締結
(2026年8月)



ABBロボティクス事業買収に
先立ち、LBOファイナンスを組成
(2026年8月)



OpenAI株式を活用したファイナンス契約の詳細は当社2027年3月期 第1四半期決算短信「3. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記(7)要約四半期連結財務諸表注記 16. 重要な後発事象(3)SVF2における資金調達」を参照

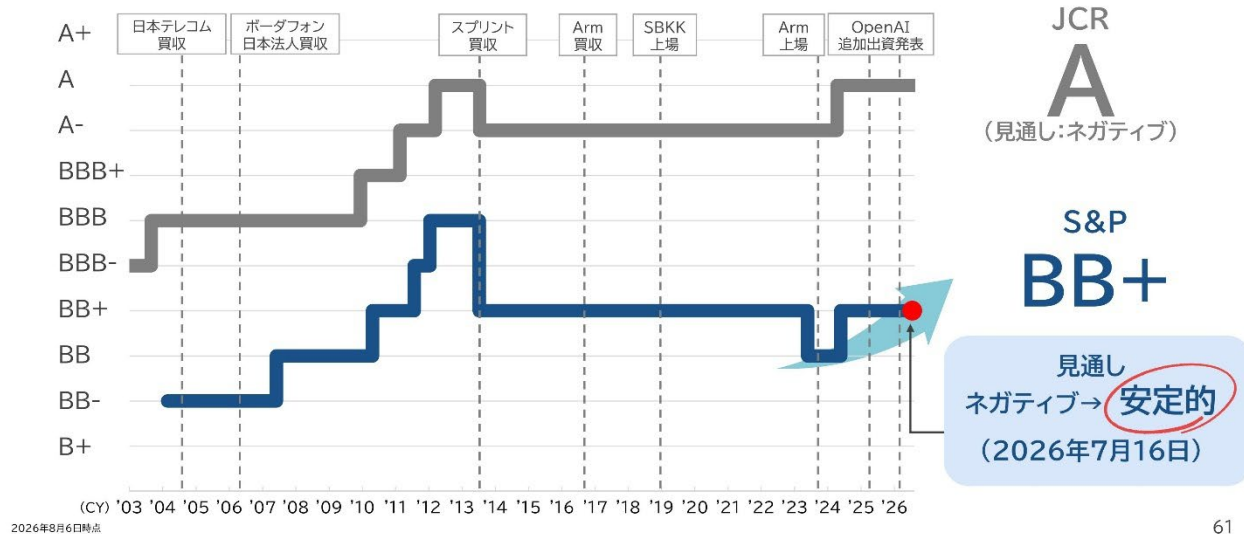
60

これらの投資に対して、7月以降、調達案件が立て続けにクローズしています。まず、OpenAI 株式を活用したファイナンス契約を締結しました、100 億米ドルの大変大きな調達です。

また ABB Robotics 買収に先立ち、LBO ファイナンスで 18 億米ドルまで調達可能なファイナンスを組成しました。いずれもグローバルの大手銀行・証券会社からサポートいただき、大きなシンジケートを組むことができました。感謝を申し上げます。

格付推移

S&Pが見通しをネガティブから安定的に変更



格付けについては、ノッチアップ、ノッチダウンではありませんが、S&P はこれまでわれわれの見通しをずっと「ネガティブ」としていましたが、今回「安定的」に変更され、改善しました。クレジットとしては大きなニュースの一つではないかと思います。

ASIのNo.1プラットフォームへ

62

ここまでご説明差し上げましたが、この4分野にこれからも徹底的に注力して、われわれの企業価値を高めていきたいと思っています。



情報革命で人々を幸せに



63

変わらず経営理念、「情報革命で人々を幸せに」ということで取り組んでいきたいと思います。

今日の説明は以上です。